

分野融合型科目

地域再生デザインプログラム

後期・選択・2単位

Regional Regeneration Design Program

担当教員 長濱伸貴・大学院担当教員・遠藤剛生

履修制限等

環境・空間デザインについて、深い関心と基礎的な知識を有していること。

到達目標（目的含む）

地域再生における今日的な課題を深く理解することにより、社会的、公益的な視点を持ちながら未来を見据えた環境デザインを行う能力を身につける。

授業の概要

持続可能な地域社会の再構築に向けて、ライフスタイルとその場所の新しいあり方としての地域空間再生計画を提案する。主にアーバンデザイン、ランドスケープデザイン、建築デザインを中心とする芸術工学分野の学際的課題として捉え、その実現に向けて、都市環境から建築空間までの空間スケールにわたって、自然環境・社会環境とデザインコンセプトとの関係、デザインプロセスの構築などについて考察する。学生相互のディスカッション、グループによるフィールドリサーチ、現地ワークショップ等を通して、具体的な提案を授業の成果物としてとりまとめる。

授業計画

- 1：オリエンテーション：地域再生の今日的課題について
- 2：ディスカッション：地域特性の分析手法について
- 3：ディスカッション：ワークショップ対象地域（都市～地域～建物スケール）の考察
- 4：フィールドリサーチ1：土地利用（都市～地域スケール）の特性調査
- 5：フィールドリサーチ2：土地利用（地域～建物スケール）の現況調査
- 6：ディスカッション：対象地域の解決すべき課題の共有
- 7：ワークショップ1：対象地域（都市～地域スケール）の歴史的な変遷の考察
- 8：ワークショップ2：対象地域（地域～建物スケール）の現状の問題点の分析
- 9：ディスカッション：提案（解決策）の方向性に関するレビュー
- 10：ワークショップ3：行政機関等のまちづくりへの取り組みの分析
- 11：ワークショップ4：対象地域の重点課題の抽出と再生手法の検討
- 12：ディスカッション：提案（解決策）の具体性に関するレビュー
- 13：ワークショップ5：地域再生プログラム提案の検討
- 14：ワークショップ6：地域再生デザイン提案の検討
- 15：ディスカッション：総合討論・まとめ

授業時間外学習

毎回の授業時に指示する宿題に取り組んだうえで、次回の授業に臨むこと。

評価方法

ディスカッション、フィールドリサーチ、ワークショップへの参加を行い、適宜レポート、図面等による成果物の提出および発表により評価する。

使用テキスト

随時指定、配布する。

実習費

フィールドリサーチや現地ワークショップ実施時には、交通費等の負担が生じる場合がある。

その他

各回の授業内容は、議論や作業の進行状況に応じて適宜調整する。フィールドリサーチや現地ワークショップは、時間割上の設定にかかわらず、履修者の日程を調整して集中的に行う場合（前期中の実施含む）がある。

ものづくり交流プログラム

後期・選択・2単位

Collaborative Program on Arts and Design

担当教員 見明暢・大学院担当教員

到達目標（目的含む）

目標とする発表の場において作品をプレゼンテーションする。プログラムにおける交流を通し、他分野の制作技術を理解し、自己の制作に応用する。

授業の概要

本プログラムでは、本学大学院ならではの、デザイン、アート、クラフトなど様々な制作バックグラウンドを持った学生が共に学ぶ環境を活かし、それぞれのもつ制作技術を、共有、応用し、制作を行う。テーマに応じて他大学と連携した提案を行ったり、国内外の展示会やイベントへ成果物の出展を目指すなど、学外へ開いた授業を行う。

授業計画

- 1：イントロダクション「プロジェクト内容・スケジュール説明」（全教員）
- 2：グループ分けと役割分担（見明）
- 3：技法の探求「各自の技法の共有」（全教員）
- 4：技法の探求「技法を応用したものづくり」（全教員）
- 5：アイデア展開と試作①（全教員）
- 6：アイデア展開と試作②（全教員）
- 7：中間発表（全教員）
- 8：アイデア修正
- 9：本制作①（見明）
- 10：本制作②（見明）
- 11：プレゼンテーション準備①（見明）
- 12：プレゼンテーション準備②（見明）
- 13：プレゼンテーションの練習（全教員）
- 14：発表会（全教員）
- 15：アーカイブ作業（見明）

※他校とのコラボレーションでの制作などの場合、コラボレーション先との日程調整次第では、[アイデア展開と試作]～[本制作]の進行に変更が発生する可能性がある。

※展示会やイベントへの出展の場合、イベントの日程に合わせ、後半の数回が現地での展示作業に変更となる場合がある。

授業時間外学習

展示や参加イベントのスケジュールに合わせ、説明員としての参加や、コラボレーション先での制作などが発生する可能性があるため、日程調整などを随時行い調整をはかる。

評価方法

制作の各段階での成果物、最終成果物を総合的に判断する。

各自準備物

テーマに合わせ、国内外の展示会の情報や動向を各自調べてみる。各自の制作技術を他参加者に説明するための準備。

コンテンツ創成プログラム

前期・選択・2単位

Content Creation Program

担当教員 黄國賓・大学院担当教員

到達目標（目的含む）

各分野の専門領域を超えて、多様なビジュアルコンテンツデザイン表現についての知識、技能、表現力を身につけ、高度なビジュアル表現とプレゼンテーションができるようになる。

授業の概要

今日のビジュアルクリエイション領域の表現の中には、多種多様な表現技術の開発によって、そのコンテンツ表現の可能性は益々拡大してきている。本プログラムでは現代社会に適合するメディアテクノロジー、デジタルコンテンツ、ビジュアルコミュニケーション、ビジュアルプレゼンテーションなどの横断的なビジュアルコンテンツデザインについての創成力とおよび技能を学ぶ。課題テーマに応じて実践的な計画、リサーチ、制作、プレゼンテーションなどの演習を通じて、高度なビジュアルコミュニケーションの表現力を身につける。

授業計画

- 1：イントロダクション（ビジュアルコンテンツ表現の多様性）
- 2：テーマ考察（国内外参考作品の分析）
- 3：ビジュアルコンテンツの表現手法と演習Ⅰ（写真と映像）
- 4：ビジュアルコンテンツの表現手法と演習Ⅱ（書体とレイアウト）
- 5：ビジュアルコンテンツの表現手法と演習Ⅲ（可視化するチャート）
- 6：ビジュアルコンテンツの表現手法と演習Ⅳ（個性表現と色計画）
- 7：中間発表：テーマ発表と制作方針
- 8：コンテンツ制作+ディスカッションⅠ（コンテンツ構想）
- 9：コンテンツ制作+ディスカッションⅡ（コンテンツ検討）
- 10：コンテンツ制作+ディスカッションⅢ（コンテンツ試作）
- 11：コンテンツ制作+ディスカッションⅣ（コンテンツ修正）
- 12：コンテンツ制作+ディスカッションⅤ（コンテンツ確定）
- 13：コンテンツ制作+ディスカッションⅥ（コンテンツ仕上げ）
- 14：コンテンツまとめ（プレゼンデータ準備）
- 15：発表+講評（総括）

評価方法

「設定したテーマの解釈と知識」「コンテンツ制作過程における技術」「プレゼンテーションの内容と表現」「提出された作品品質」を総合的に評価する。

使用テキスト

各自のテーマに沿って随時指示する。

各自準備物

回ごとに指示または教員が用意。

地域創造アートプログラム

前期・選択・2単位

Art Creation Program for community

担当教員 谷口文保・大学院担当教員

到達目標（目的含む）

アートプロジェクトの企画運営の方法や課題について、体験的に理解する。芸術的アプローチによる地域創造の課題と可能性について理解する。

授業の概要

少子高齢化や過疎化の進む地域社会の活性化は現代社会の重要課題である。近年全国各地で展開しているアートプロジェクトは、こうした地域の課題を解決する新しいアプローチとして大きく注目されている。本授業では、実際に地域住民の方々と連携し、アートプロジェクトを企画し、それを実践する。その経験を通して、地域社会におけるアートプロジェクトの有効性を検証し、芸術工学の観点から芸術的アプローチによる地域創造の課題と可能性を考える。

授業計画

- 1：イントロダクション「アートプロジェクトの可能性」
- 2：現地調査1 障害者福祉施設の見学（集中）
- 3：現地調査2 室津地区の見学（集中）
- 4：ワークショップの企画1 現地調査の振り返り
- 5：ワークショップの企画2 企画提案とディスカッション
- 6：現地ワークショップ1 町歩きと写真撮影（集中）
- 7：現地ワークショップ2 デザイン制作（集中）
- 8：作品制作1 デザイン
- 9：作品制作2 印刷
- 10：作品制作3 仕上げ
- 11：現地での展示1 展示場所の検討（集中）
- 12：現地での展示2 作品展示（集中）
- 13：活動の検証1 活動全体の振り返りとディスカッション
- 14：報告書作成
- 15：まとめ

授業時間外学習

神戸芸術工科大学学術リポジトリ (<https://kobe-du.repo.nii.ac.jp>)で公開されている下記報告書を事前に読んでおくと、活動の背景や仕組みが良く理解できる。

谷口文保、ばんばまさえ、小越将吾「障害者福祉施設と大学の連携による地域に共創を誘発するアートプロジェクトの研究 - コラボ・ショール 室津を身にまとう -」神戸芸術工科大学紀要2015

評価方法

報告書とアートプロジェクトへの貢献度を総合的に評価する。

参考テキスト・URL

谷口文保、ばんばまさえ、小越将吾「障害者福祉施設と大学の連携による地域に共創を誘発するアートプロジェクトの研究 - コラボ・ショール 室津を身にまとう -」神戸芸術工科大学紀要2015

熊倉純子監修「アートプロジェクト 芸術と共創する社会」（水曜社、2014）

各自準備物

授業中に指示する。

実習費

交通費は各自負担となる。

その他

現地での活動を3回実施する。2018年度は、兵庫県たつの市の室津地区で地域と連携してアートプロジェクトを実施する。たつの市にある障害者福祉事業所 NPO 法人えびすと連携して、6月～7月に町歩きワークショップを実施する。その成果をもとに学内で作品制作を行い、8月に現地で開催される「八朔の雛まつり」に合わせて現地で作品展示を行う。

都市空間デザインプログラム

前期・選択・2単位

Urban Space Design Program

担当教員 畑友洋・萬田隆・大学院担当教員・吉良森子

関連資格

一級建築士

到達目標（目的含む）

建築と都市空間の関係を理解し、具体的課題において建築デザインのデザインプロセスを実践することにより、構想力および実践的スキルを身につける。

授業の概要

都市空間を構成する建築の計画デザインを実践的に学ぶ。具体的提案を求める計画地を設定し、その計画地が位置する地域の調査にもとづき景観、安全、相隣環境など計画地に求められる計画条件を把握するとともに、企画コンセプト立案からデザインプロセスを実践的に学ぶことにより、計画設計実務に求められる基本を習得する。

授業計画

- 1：オリエンテーション：建築と都市空間
- 2：調査分析1：課題条件の分析
- 3：調査分析2：現地調査と対象地域・計画地の分析
- 4：プログラム1：計画条件の分析と基本コンセプトの検討
- 5：プログラム2：プログラムの検討
- 6：プログラム3：ボリュームデザイン
- 7：中間講評（コンセプト・ボリューム・プログラム）
- 8：デザイン1：プランニング
- 9：デザイン2：デザイン素案
- 10：デザイン3：構造検討
- 11：デザイン4：設備・材料等設計条件の確認
- 12：デザイン5：デザイン構想案
- 13：デザインのまとめ
- 14：デザイン提案のまとめとプレゼンテーション作業
- 15：総合講評（図面・模型・パース等）

授業時間外学習

毎回の授業時に指示する宿題に取り組んだうえで、次回の授業に臨むこと。

評価方法

ディスカッション、フィールドリサーチ、ワークショップへの参加と同時に、適宜レポート、図面等による成果物の提出および発表により評価する。

使用テキスト

随時指定、配布する。

実習費

フィールドリサーチや現地ワークショップ実施時には、交通費等の負担が生じる場合がある。

その他

環境・空間デザインについて、深い関心と基礎的な知識を有していること。各回の授業内容は、議論や作業の進行状況に応じて適宜調整する。フィールドリサーチや現地ワークショップは、時間割上の設定にかかわらず、履修者の日程を調整して集中的に行う場合がある。